

新しい千葉の未来を切り開く「教育立県ちば」を実現する有識者会議に係る
専門部会結果概要

1 専門部会委員（五十音順）

【第1部会：子供たちの自信を育む教育の土台づくり】

宇佐美 政英 委員：国立国際医療研究センター国府台病院児童精神科診療科長

海老名みさ子 委員：NPO法人「外国人の子どものための勉強会」理事長

大野 英彦 委員：千葉大学教育学部附属教員養成開発センター教授

宮崎 翔太 委員：日本マイクロソフト株式会社パブリックセクター事業本部教育戦略本部長
兼日本教育事業統括GIGAスクール政策室長

【第2部会：未来を切り開く「人」の育成】

清原 洋一 委員：秀明大学学校教師学部教授

下屋 俊裕 委員：株式会社市進ホールディングス代表取締役会長
株式会社学研塾ホールディングス代表取締役会長

高岡 顕慎 委員：いすみ市立大原小学校教諭

八木澤史子 委員：千葉大学教育学部助教

【第3部会：地域全体で子供を育てる体制と全ての人が活躍できる環境づくり】

大日方 一 委員：千葉市立千城台西中学校長

川島 隆太 委員：南房総教育事務所スクールソーシャルワーカー・スーパーバイザー

須藤 陽子 委員：株式会社須藤牧場監査役

丹間 康仁 委員：筑波大学人間系教育学域准教授

2 実施日

第1回（全体会） 令和6年8月1日（木）教育庁企画管理部会議室

第2回（分科会） 令和6年9月17日（火）教育庁教育委員室〈第2部会〉

令和6年9月18日（水）本庁舎応接室 〈第1部会〉

令和6年9月19日（木）教育庁教育委員室〈第3部会〉

3 意見まとめ

【基本目標1：子供たちの自信を育む教育の土台づくり】

指摘箇所	意見
施策1(1)	○採用数が少なかった、氷河期世代など、中高年の教員採用も、引き続き取り組んでもらいたい。
施策1(2)	○ICT 指導力の育成に関していえば、秋田県では各学校でキーとなる職員の横のつながりをねらいとして実践を共有するスキームをつくっている。参考になるのではないか。
施策1(3)	○学校における働き方改革はDXに関する取組が必須であるため、骨子の際にあった「DX」という文言は残しておいた方がよいと思う。働き方改革のためのDXというロジックが必要だ。 ○熱意のある教員に燃え尽きてもらう組織運営は続かない。 ○教育、医療、福祉がチームとなって地域で連携できる仕組みづくりが必要だ。
施策2(4)	○環境整備に対して「老朽化対策」という言葉が前面にでていますが、老朽化対策はもちろん必要なことだが、時代にふさわしい環境を整えることが目標にもある「魅力ある学校づくり」につながるのでは。私立と公立の施設面でのギャップの大きさを踏まえて、時代にそぐう施設整備の意識をもってほしい。
施策3(2)	○教育と医療の連携がシステムにならないといけない。専門機関・医師に顔のきく教員に頼る現状は課題がある。
施策4(1)	○不登校は精神医学的には状態像、背景に不安障害や気分障害、さらに発達障害などの様々な精神疾患、虐待などの重大な家庭の問題が隠れていることがある。不登校児童生徒を支援するための指導資料集を活用した教員研修に医療との連携事例等も含むことが望ましい。 ○「子供の心の健康ケア」でも、ICTの活用には際しては、幅広いデータをダッシュボード化し可視化することが1丁目1番地ではないか。
施策4(2)	○いじめ防止対策や児童生徒の自殺対策について触れられているが、残念ながらそれらが起こってしまった後の学校や行政の対応について、もう一步踏み込んだ内容があってもよいと思われる。 ○SOSが出せない、孤立した子供をどう支援するかが問題である。

指摘箇所	意見
施策4(5)	<ul style="list-style-type: none"> ○日本語習得は、日常会話ができても学習活動に参加するまでに数年がかかることから、長期の日本語指導が欠かせない。 ○日本語指導は学校だけでなく、地域で居場所的に行われている事もあることから、地域、保護者との連携が欠かせない。 ○日本語指導が必要な児童生徒の把握にはスクールソーシャルワーカーの視点も必要であることから、スクールソーシャルワーカーとの連携が欠かせない。 ○オンラインによる日本語指導を進める必要から、外部専門企業との連携、協働が欠かせない。 ○外国人児童生徒の多くが孤立していることから、その原因（日本人のための学校教育になっていないか。外国ルーツの児童生徒の出番があるか）を考える取り組みが欠かせない。 ○外国人児童生徒の多くが日本語をうまく話せないことを理由に自己肯定感をもてず将来の夢を持ってないことから、日本語は出来なくても自尊感情を向上させ、将来の夢を考える取り組みが欠かせない。 ○教育版マイクラフトには、言語を超えた子供同士の協働を作り出す効果がある。

【基本目標2：未来を切り拓く「人」の育成】

指摘箇所	意見
施策5(1)	<ul style="list-style-type: none"> ○教育課程の基準を大綱的に定めるものである学習指導要領は改訂されたわけではないので、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」は変わっていない。このことを「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」という面からより進めていこうというもの。学校現場で、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」と「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」との関係が曖昧になっていると思われる節が見受けられる。 ○文理横断的の言葉は、教科横断的の方がより幅広いのではないかと感じる。
施策5(3)	<ul style="list-style-type: none"> ○人材確保及び配置を強く希望する。専科教員の配置、小中連携についても進めていければと思う。 ○（外国語教育の人材確保に関連して）教員になりたいという高校生が減少している。教員の人材確保は、キャリア教育の施策も含めて10～20年の長いスパンで考えていくべき。
施策5(4)	<ul style="list-style-type: none"> ○最後の段落にある教育用コンピュータの整備・更新については、小中学校ではほぼ環境が整ってきたものの、高等学校では未だ厳しい状況であることから、「全校種において」という言葉を明記してはどうか。

指摘箇所	意見
施策 8(2)	<p>○(自殺等が)起こった後にどう対処するか視点も課題であろう。</p> <p>○ICT を活用した児童生徒のストレスチェックについては、エビデンスを示してメリットをしっかりと現場の教員に伝わるようにしていくべき。</p> <p>○千葉県における子どもの自殺予防対策は極めて喫緊の課題であり、常に0名を目指していく姿勢が求められる。特に自殺の危険性が高い児童をスクールカウンセラーやソーシャルワーカーを含めた教育機関だけで抱え込むことなく、入院治療の対応も可能な児童精神科医療機関との連携や人材育成の取り組みが欠かせない。千葉県全体ではそのような取り組みがなされておらず、子どものこころ専門医が県内に19名しかおらず、人口比率的に全国ワースト5に入っている。</p>
施策 9(3)	<p>○千産千消を進めていくことも大切だと思う。</p> <p>『ちばの恵み』を取り入れた」食育の指導体制という言葉を入れてみたらいかか。</p>
施策 10(1)	<p>○学生は、ワークライフバランスを強く意識している。かえって「働くこと責任」について意識することの必要性を伝えているほどだ。</p> <p>また、「終身雇用」ではない社会の在り方(変化)を踏まえてキャリア教育を考えていく必要があるのではないか。</p> <p>○身近にいる大人が働いている姿を見せることが小学校段階では必要なこと。</p> <p>○人間としての在り方、生き方に踏み込んだキャリア教育が必要ではないか。</p>

【基本目標 3 : 地域全体で子供を育てる体制と全ての人が活躍できる環境づくり】

指摘箇所	意見
施策 11(1)	<p>○「家庭教育支援」に対する人材をよりもっと多く確保し、身近に相談相手がない保護者へつないでいくことが望まれる。そのためには、子育ての経験者などの人材確保や、地域の中で活用できる仕組み・制度作りが必要だ。</p> <p>○家庭教育に関する情報が少ない。</p> <p>○こども家庭庁が発足し、子育て施策が総合化する中、教育行政の役割を明確化していく必要がある。中心は、「保護者としての学び」であり、学びを通じて支援する。</p>
施策 11(2)	<p>○部活動の地域移行も課題になっている。指導者不足は感じるが、教員の負担軽減になっている。</p> <p>○部活動の地域移行により地域格差が広がる傾向がある。そこを埋めるのが県の責任。あわせて、放課後の豊かな学びづくりも重要課題だ。</p> <p>○房総地域では、少子化の影響がより深刻。サッカーチームを作るのに、2・3歳児に声をかけている状態だ。</p>
施策 11(3)	<p>○何をもって子供の SOS なのかが難しい。直接の対話の中で SOS を発信できる関係が大切だと考える。教育と福祉の役割分担が大切。</p>

指摘箇所	意見
施策 12 全般	<p>○学びの意欲と機会が、うまくマッチしていない状況にあるようだ。地域差を感じずに、マッチングできる仕組みが必要ではないか。</p> <p>○大人の学びは、内発的動機、生活との関連でとらえる必要があるのではないか。また、大人が学ばない状況が指摘されるが、「学ばない大人」を育てたのは、今までの学校教育であることを認識すべきであると考えている。</p>
施策 12(5)	<p>○「社会に出た後でやり直すことができるスキル」を学ぶ機会が必要だ。</p>